

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02405

研究課題名（和文）マルシリオ・フィチーノの教育論におけるパイディアの変容過程に関する研究

研究課題名（英文）Transformation of paideia in the educational theory of Marsilio Ficino

研究代表者

加藤 守通（Kato, Morimichi）

東北大学・教育学研究科・名誉教授

研究者番号：40214407

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、古代ギリシャのパイディアと近代的人間形成論の交差点としてのフィチーノ哲学を、美と芸術に焦点を当てて解明することを目的とした。2019年度には、フィチーノのプラトニズムの歴史的背景を調査し、特にゲミストス・プレトンの思想を明らかにした。2020年度には、フィチーノと当時の人文主義の関係を考察した。2021年度には、フィチーノの主要著作を読解し、「人間」「愛」「美」「芸術」といった概念の教育的意義を明らかにすることに努めた。2022年度には、プラトン・アカデミーへの参加者に焦点を当て、フィチーノのプラトニズムが文化全体に拡散される過程を調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、フィチーノ哲学を通じて古代ギリシャのパイディアと近代的人間形成論の交差点を解明し、美と芸術の概念が教育に与える影響を明確にする点にある。特に、フィチーノに影響を与えたゲミストス・プレトンの思想や、フィチーノの主要著作を精査することで、「人間」「愛」「美」「芸術」といった概念の深い理解が得られる。

社会的意義としては、フィチーノのプラトニズムがどのようにして文化全体に広がり、影響を与えたかを明らかにすることで、現代の教育に新たな視点を提供する点が挙げられる。これにより、現代社会における美と芸術の役割や価値が再評価され、教育現場や文化政策における実践に寄与することが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study aims to elucidate Ficino's philosophy as a crossroads between ancient Greek paideia and modern humanistic theory, focusing on beauty and art. In 2019, the historical background of Ficino's Platonism was examined, highlighting Gemistus Plethon's direct influence on Ficino. In 2020, the research explored the relationship between Ficino and contemporary humanism. In 2021, building on previous research, Ficino's major works, such as "Platonic Theology," "Commentary on the Symposium," "Commentary on Phaedrus," "Letters," and his translations of Plato, were analyzed. This brought concepts like "human," "love," "beauty," and "art" into focus, revealing their educational significance. In 2022, the study shifted to thinkers and artists influenced by Ficino's Platonism through the Platonic Academy, investigating how his ideas were popularized and spread throughout broader culture.

研究分野：教育思想史

キーワード：フィチーノ プラトニズム 人間形成論 人文主義 ゲミストス・プレトン

1. 研究開始当初の背景

フィチーノを通じて古代ギリシャのパイディアをヒューマンイズムに繋げる研究は従来ほとんど行われていなかった。古代ギリシャのパイディアは、個人の総合的な教育と人格形成を目指す教育理念であり、これがルネサンス期のフィチーノによってどのように受け継がれ、変容したかを探ることは、古代と近代を結ぶ重要な研究課題である。フィチーノの哲学は、プラトニズムに基づいており、彼の思想を通じて古代の教育理念と近代の人間形成論の交差点を探ることで、新たな知見が得られると期待された。しかし、この観点からの体系的な研究はこれまで行われておらず、フィチーノの思想が持つ教育的意義やその歴史的背景に関する深い理解を得ることが求められていた。

2. 研究目的

本研究の目的は、フィチーノ哲学を通じて古代ギリシャのパイディアと近代の人間形成論の交差点を解明し、美と芸術の概念が教育に与える影響を明確にすることである。フィチーノの思想が、古代と近代の教育理念をどのように橋渡しする役割を果たしているかを明らかにし、それが現代の教育や文化にどのような示唆を与えるかを探ることを目指す。また、フィチーノのプラトニズムがどのようにして文化全体に広がり、通俗化されていったかを調査することで、彼の思想が現代社会に与える影響を考察することも目的の一つである。

3. 研究方法

2019年度には、フィチーノのプラトニズムの歴史的背景を調査し、特にゲミストス・プレトンの思想を明らかにすることに注力した。プレトンは、ビザンチン出身のプラトニストであり、彼の思想がフィチーノに与えた影響を精査することで、フィチーノの哲学の根底にあるプラトニズムの特質を浮き彫りにした。2020年度には、フィチーノと当時の人文主義の関係を考察し、彼の思想がルネサンス期の文化的文脈の中でどのように位置づけられていたかを明らかにした。2021年度には、前年度までの研究成果を前提として、フィチーノの主要著作を読解し、「人間」「愛」「美」「芸術」といった概念の教育的意義を深く掘り下げることに努めた。具体的には、『プラトン神学』『饗宴注解』『パイドロス注解』『書簡』およびプラトンの翻訳など、フィチーノの諸著作を精読し、これらの概念がフィチーノの思想体系の中でどのように展開されているかを明らかにした。2022年度には、プラトン・アカデミーへの参加者に焦点を当て、フィチーノのプラトニズムが文化全体に拡散される過程を調査した。特に、アカデミーの影響を受けた思想家や芸術家の言説と作品を分析し、フィチーノのプラトニズムがどのようにして広まっていったかを詳しく検討した。

4. 研究成果

本研究を通じて、フィチーノ哲学を通じて「人間」「愛」「美」「芸術」といった概念が教育に与える影響を深く理解することができた。フィチーノのプラトニズムがどのようにして文化全体に広がり、影響を与えたかを明らかにすることで、現代社会における美と芸術の役割や価値が再評価された。具体的には、フィチーノの思想が持つ教育的意義を明確にし、それが現代の教育理念にどのように応用され得るかを示した。さらに、フィチーノのプラトニズムがルネサンス期の文化に与えた影響を通じて、現代における人文主義の実践に新たな視点を提供することができた。この成果は、教育現場や文化政策における実践

に寄与し、フィッチーノの思想が現代の教育や文化においてどのような意味を持つかを再考する契機となった。また、フィッチーノのプラトニズムが広がる過程を追うことで、彼の思想が現代社会においてどのように受け入れられ、発展してきたかを理解する手がかりを得ることができた。これにより、現代社会における美と芸術の役割や価値が再評価され、教育現場や文化政策における実践に寄与することが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計14件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 Morimichi Kato	4. 巻 16
2. 論文標題 Discovering the Educational Power of Literature: Coluccio Salutati and Motoori Norinaga	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Educational Studies in Japan: International Yearbook	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Morimichi Kato	4. 巻 0
2. 論文標題 Distance matters: a hermeneutical approach to Japanese humanistic traditions	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00131857.2021.1920321	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Morimichi Kato	4. 巻 53-9
2. 論文標題 Minakata Kumagusu: the first Japanese environmentalist	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 852-857
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00131857.2020.1770612	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Morimichi Kato	4. 巻 53-2
2. 論文標題 Confucius and Aristotle on Educational Role of Community	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 112-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/00131857.2019.1700887	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Morimichi Kato	4. 巻 0
2. 論文標題 The educational function of Japanese arts: An approach to environmental philosophy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131857.2021.1904396	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤守通	4. 巻 54
2. 論文標題 ピエール・パオロ・ヴェルジェリオ『自由な青少年にふさわしい性格と学問』についての本 翻訳と解説	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上智大学『教育学論集』	6. 最初と最後の頁 15-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤守通	4. 巻 29
2. 論文標題 「コメント論文 ピュタゴラス主義とは何か」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近代教育フォーラム』	6. 最初と最後の頁 102-109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ruyu Hung, Morimichi Kato, Xu Di, Chia-Ling Wang	4. 巻 52-14
2. 論文標題 Review Symposium: Ruyu Hung, Education between Speech and Writing: Crossing Boundaries of Dao and Deconstruction (London, Routledge, 2019)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 1526-1545
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kato, Morimichi	4. 巻 53-2
2. 論文標題 Confucius and Aristotle on Educational Role of Community	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 112-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤守通	4. 巻 54
2. 論文標題 ビエール・パオロ・ヴェルジェリオ『自由な青少年にふさわしい性格と学習についての本』－翻訳と解説－	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 上智大学教育学論集	6. 最初と最後の頁 15-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Morimichi	4. 巻 0
2. 論文標題 Confucius and Aristotle on the educational role of community	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131857.2019.1700887	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Morimichi	4. 巻 0
2. 論文標題 Armagedon and pedagogy of terror	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Educational Philosophy and Theory	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00131857.2019.1676496	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Morimichi	4. 巻 1
2. 論文標題 43.The Future of Human Teaching in the Age of AI	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Beijing International Review of Education	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/25902539-00102001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kato, Morimichi	4. 巻 2
2. 論文標題 Topography of Education	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asia Pacific Journal of Educational Research	6. 最初と最後の頁 45-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Kato, Morimichi; Hung, Ruyun; Kwak, Duck-Joo
2. 発表標題 Looking East
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Australasia, 50th Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kato, Morimichi
2. 発表標題 Education as a Continuing Dialog with Nature and Art in East Asia
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Australasia, 50th Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 加藤守通
2. 発表標題 教育学とテクノロジー 夢と幻滅を超えて
3. 学会等名 教育哲学会第62回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kato, Morimichi
2. 発表標題 Topography of School Education
3. 学会等名 Philosophy of Education Society of Korea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関